

令和2年度 第1回桑名市総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和2年7月6日(月)
開会 10時00分 閉会 11時15分
2. 開催場所 桑名市役所3階第2会議室ほか
3. 出席構成員
桑名市長 伊藤 徳宇
桑名市教育委員会
教育長 近藤 久郎
委員 松岡 守
委員 稲垣 陽子
委員 佐藤 強
委員 松香 洋子
欠席委員
委員 安藤 智里
4. 構成員以外の出席者
(総務部)
総務部長 松岡 孝幸
総務部理事兼総務課長 金子 洋三
総務課主幹 伊藤 彰英
総務課 竹内 聡
(教育委員会事務局)
教育部長 中村 江里子
教育監兼学校支援課長 高木 達成
学校支援課主幹 高木 秀和
学校支援課 清水 智則
教育委員会次長兼教育総務課長 天野 昌浩
教育総務課長補佐兼管理係長 丹川 健吾
5. 議 題 (1) 桑名市ICT教育の方向性について
(2) その他

【総務部長】

令和2年度第1回桑名市総合教育会議を実施します。市長は市長室、委員の皆様はご自宅などで、それ以外の職員は市役所の3階、第2会議室からオンラインで会議を実施しますので、よろしくお願いいたします。

会議に入ります前に、本日の会議の公開についてお諮りをいたします。

本日の会議では非公開とすべき案件の予定はございません。会議を公開とすることにご異議ありませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【総務部長】

ありがとうございます。ご異議がないようでございますので、公開とさせていただきます。

なお、一般の傍聴の方は、市役所3階、待合室、別室を用意してありまして、記者の傍聴がある場合は記者室で行っていただいております。よろしくお願いいたします。

ただいまから令和2年度第1回桑名市総合教育会議を開催します。

本日ですが、安藤委員が所用のため欠席でございます。ご了承をよろしくお願いいたします。

本日の会議では桑名市ICT教育の方向性についてご協議を頂きます。よろしくお願いいたします。

ここからは市長に会議の進行をお願いします。

市長、よろしくお願いいたします。

【市長】

改めまして、皆さん、おはようございます。

今日は第1回の桑名市総合教育会議なんですけれども、ご案内のように、コロナウイルスへの対応ということで様々なものがオンライン化しておりますけれども、この桑名市の総合教育会議も新しい生活様式に合わせてオンラインで対応していこうじゃないかということで皆さんにご参加を頂きました。松香委員は東京からですか。ありがとうございます。東京からでも参加を頂けていますし、大変よく皆さんも写っています。私もどたばたでしたけれども、何とかこの会議のところまで来ることができました。しっかりとこのような新しいオンラインを使ってでも会議ができる世の中になってきたんだなど大変うれしく思っております。

それでは、今からこの新しい生活様式に合わせた第1回桑名市総合教育会議をスタートします。よろしくお願いいたします。

では、まず、事項の1、桑名市ICT教育の方向性についてを議題といたします。

それでは、事務局より説明をお願いします。

【教育監兼学校支援課長】

学校支援課の高木でございます。皆さん、私の声が聞こえますでしょうか。

それでは、こちらのパワーポイントのスライドに基づいてお話をさせていただきます。時間のほうも限られておりますので、一部割愛もしながら進めてまいります。よろしくお願いいたします。

それでは、まず、別添資料のほうをご覧ください。

ここでは主に桑名市の現状を中心にお話をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。これについてお話をさせていただいた後、もう一つのパワーポイントにおいて今後の方向性についてというところを中心にお話しさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まず、こちらのほうのスライド、参考資料の2をご覧ください。

こちらのほうでは文部省の導入計画と桑名市の整備という図になっております。今後、9月、整備後、今年の9月までに次第にパソコン末端のiPad等の整備が進んでまいっております。最終的には令和2年度の9月をめどに文部科学省が目指しております1人1台の可動式パソコンと電子黒板、無線LANといったものが完了するということになりますので、おおむねこれで文部科学省の言うステージ4の達成ということになります。今後、家庭とのネットワーク等についての課題というのは残ってまいります。この辺りについては今後の課題ということで議論することになります。

その次でございます。

今現在、最大数、各クラスに入っておるのが今のところ一番多いクラスの子どもの数で1クラス分というのを入れさせていただいておるわけですが、それを使って今も実践のほう次第に進んでおるところでございます。

こちらは資料の6をご覧ください。

こちらで授業支援ソフト、ロイロノートというんですけれども、こちらのほうで子どもたちがそれぞれの友達の意見を一目で見ることができるといことで、そこの中から自分以外の考えに触れたりしながら考えを深めていくという授業を展開するようになってまいりました。

次のページです。

動画の活用ということで、これもこれまででしたら当然黒板というのは静止しておるものですが、この動画というものを活用して動きがあるものを見ることができるようになったということでございます。

その次でございます。

オンラインの可能性ということで、教室と教室外とつながれるということで、今後、場合によっては国外とのつながりも可能性として出てまいりますし、当然、家庭と学校、そういった接続も可能になっております。当然、教室と教室との接続も可能になるということで、今後、その環境を生かしてどのように展開していくかというところの可能性も出てまいっております。

それから、その次でございます。

プログラミング教育ということで、これは今年度から小学校でも必修になっております。例えば、理科とか算数、そういった教科の中においてプログラミング的な思考を育成するよにということで、プログラミング教育を入れるよにということになっております。

こういう中で、特にマイクロビットを使った地震速報装置であります、マイクロビットというのは様々なプログラミングをすることで万歩計になったりとか、電子サイクルになったり、こちらにありますよな地震速報装置を作ったりとか、プログラミングによって様々な機能を持たすことができる教材でございます。そういったものを実際に子どもたちが体験的に使用する中でプログラミングの基本的な考え方を身につけるよにということで学習を展開しております。

次は実際に各校で先進的に行われておる事例を幾つか挙げさせていただきます。

まず、国語の例でございます。こちらではそれぞれグループで提案書を作って、グループ同士の考えをつなげてみて、全体としてどのような形にしていくのかというのを見いだそうとした授業でございます。

それから、右側にあるのが「大造じいさんとガン」という1つの教材があるんですけれども、それで子どもたちが学習を進めている様子です。これがこれまでの黒板であれば、1回書いては消し、また書いては消しという繰り返して、当然これまでのものは消されてしまっ見えなくなってしまうわけですが、1つずつの記録をこのような形で全一覽のように見せることよってこれまでの学習の流れを見ることができるといことで、子どもの意識をつなぐことができるよな試みでございます。

その次が算数です。算数で1つの問題を解いていくといときに、子どもたちの様々なアプローチの仕方というのを一堂に見ることができるといことで、1つの問題を解くのにいろいろなアイデア、方法をもっ解くことができるよにということで、この中で1つの問題に対しての理解を深めていくことができるよになっております。

それから、次、理科でございます。13になります。こちらにも実際に観察した花の写真をみると、こちらのほうで雌しべがない、あるいは雄しべだけだといことで、これは雄花だんといことが分かるよにということで、実をつける花と実をつけるために必要な花といことで、それぞれ観察をする例でございます。それから、あとは空中から見た航空写真を見て、どちらが上流かといことを見ていくとか、こんな形で写真や動画、地図機能を使うことよって観察や結果の整理等ができるよになっております。

その次は総合、体育、道徳の例でございます。例えば、ここでは組み体操の見本ということになっております。こういった体育なんかでは、うまくいった例とか、逆にいかない例というのを動画で撮っていくことで、それを丁寧に見ると、こんなような方法でいくとうまくいくのか、逆にうまくいかないのかというような比較ができるということで、子どもたちの技術の上達に資することができるということでございます。

それから、右側のほうですが、道徳でモラルジレンマということで、1つが成り立つと1つが成り立たないというようなものをお互いに意見を出し合いながら落としどころを見つけていくというような意見交流をするのにも、一目で見ることができることで比べることができます。

それから、オンライン関係の活用です。こちらのほうでは、例えばこれは久米小の例ですけれども、朝の会をZ o o mを使って実施したということで、一部の子どもは家庭のネット環境の関係で学校で受けてもらったりもしたわけですけれども、こんな形で一堂に久しぶりに、画面上ではありましたが、顔を合やすことで非常にみんなが盛り上がり、元気を取り戻したということができました。

それから、その次です。日進小学校の例です。

こちらでは密にならないような形で授業がうまくできないかということで、教室を2つに分けて、Z o o mを使って授業を行ったということです。この方法で1つの学級を2つに分けて1人の教師が教えるというような試みをさせていただきました。

その次、スライド18です。

こちらではオンライン学習体験ということで、あえて先生と違う教室に行くことで遠隔の授業というのは一体どのような形になるのかということで体験的に学んでいただいたというものでございます。

その次です。オンライン教材の活用ということで、休校時に特に中学校3年生の子どもたちについては進路もありますので大変学力保障を心配しておったところですが、オンライン教材のイーボードというのを活用して、これを家庭で見るということで、このイーボードというのは最初に基本的な内容を解説します。その解説を聞いた後、それに関する問題、課題を解くというような構造になっております。これに中学校3年生については全員取り組んでもらったと。このような形での可能性も探っております。

その次は最先端の技術の活用ということで、企業との教材共同開発ということで、左は3Dの立体的なもの、どうしても人体の構造など、このような立体画像で動きも見ながら見ていくと、平らな紙の教材だけではイメージしにくいものも理解が深まるということで、3Dモデルで体感的に学ぶことができるようになっております。この辺りの教材についてはプロでないとなかなかできませんので、こういったことも企業とコラボレーションをすることによって可能になるということでございます。

以上、まず、現状の様々な試みを含めて説明をさせていただきました。

その次へ参りたいと思います。

それでは、もう一方の桑名市ICT教育の方向性についてという資料をご覧ください。

最初のほうの資料はこれまでも会議のほうでも出させていただいた国の動向等を資料として載せさせていただきました。今後、S o c i e t y 5.0ということでスマート社会というふうなものに進んでいくであろうということや、それから、AI等ビッグデータが使われる社会になっていくというようなことを示させていただいております。

そのような中で、新学習指導要領においても、特に知識、技能においては何ができるか。それから、思考力、判断力、表現力等でも理解してきたことをどう使うか。最終的にはどのように社会、世界と関わり、よりよい人生を送るかということで、より実践的な力をつけてほしいというような視点で設定されております。

その次が文部科学省が目指しておりましたステージ4、1人1台端末、高速通信環境が今後もたらずことでどのような学びがもたらされるのかというようなことが1つの表として表現されております。

こちらのほうでは、右側のピンク色のところ、1人1台端末の環境のところをご覧ください。こちらでは、まず、学びの深化として、教師が授業中でも一人一人の反応を把握できるということで、これま

ででしたら、例えば机の間を一人一人のところを回って直接見なければならぬ、聞かなければならぬ状況であったのが一目瞭然でその状況を見ることができるといふことで、非常に効率的に子どもの学びの状況をつかむことができる。それをつかんだ上で素早く一人一人の必要な支援、指導をすることができるというこゝで、大変効率的に進めることができるということになります。

それから、2番目のところですけども、個別学習というところですけども、各自が同時に別々の内容を学習したり、各自の学習履歴が自動的に記録されるとありますけれども、まず、これについては先ほど申し上げたところにもありますけれども、一人一人の反応を教師が把握できるということもあります。もう一つは、ほかのお友達の考えやなんか子どもたちからも見ることができるといふことで、一人一人の学びをつないだり、それから、進み過ぎた子どもにはより進んだ教材を与えたり、それから、今つまづいている子どもには教員が直接行って丁寧に指導する等の個別の対応ができるということ、それから、学習の履歴が自動的に記録されるというよゝなことで、一人一人の子どもの状況、学びの上達の状況を丁寧に分析したり、その対応を考えたりもできるということになります。

それから、一人一人の記事や動画等を集めて独自の視点で編集できるというこゝで、子どもたちが様々な考えや資料、それから、自分の考え、そういったものを総合的に編集していくことで自分の思考を見える化したり、絞り込んだり、明確化をすることも可能になるというこゝでございませう。そんなことで一人一人が自分に合った形でより深い学びを実現していくことが可能になるというふうを考えております。

それでは、次、こちらのスライド6ではペーパーレス化による学びの効率化というところを特に話をさせていただきますと思います。

こちらのほうでもこれまででしたら全部紙で配っておったものもそれぞれの情報端末に送ることができますので、印刷時間や紙の節約ということも可能になりますし、子どもたちもいつでも必要なものを見返すことも非常にしやすくなるというこゝで、今後、情報端末が入ることによつてそういった点でも大変便利になるということや、それから、災害時における連絡等にも積極的に活用できるものと考えております。

それから、次です。今後のICT教育の方向性というこゝで、こちらのほうからメインのお話になるわけですけども、これは先ほど言つていたやつですね。現在はこのような形でようやく教室のほうもICT環境が整つたという状況になっております。

それから、学校での授業、それから、新しい教育、それから、トライアルというふうにいるいろいろ図が書いてございませうけれども、1つはロイロノートを使つて子どもたちがそれぞれの考えを交流したり、1つにしたりというよゝな取組ができる状況になっておるといふこと、それから、企業とのコラボレーション、それから、ドリルアプリ等を使つてみて基礎学力の向上についての試み、それから、総合型校務支援システムによる校務の効率化、それによつてのゆとりを生み出すことでより子どもたちに向かい合う時間、余裕等をつくり出せるというよゝなことが今のところ桑名が取り組んでおる4つの取組ということになっております。

その次、スライド11でございませう。

この中核となるのが授業改善というこゝで、子どもたちがインプットとアウトプットを一緒に円滑にしていきたいというこゝで、ロイロノート等を活用することで、これまでの写したり、書いて覚えるのに必死という状況から、効率的にインプットとアウトプットができることで自分の頭を働かせる時間がより増えていくというこゝでございませう。これまでではどちらかというこゝで教師が教えることに一生懸命になって一方的に話して、時間内になかなか終えられないというよゝな授業が多々見られたのが、子どもたちが主役で効率よく自分の学びを進めていくということが可能になってくるということと、それから、ICTを使うことが目的となっている授業というのがどうしても初期の場合はあつたんですけども、最近の傾向としては、先ほど見ていただいたよゝに、ICTを積極的に使うことによつてよりよい学びを見いだしていこうという動きがどんどん進んでくるよゝなになっております。

その次でございませう。これは家庭学習など、こういったよゝなものを見ていったときに、これまでだ

と一律に宿題なんかも出されることが多かったわけです。例えばドリルの何ページをやってきなさいというような形ですね。それが個々の学力の状況に合わせてAIなんかを活用することで一人一人の学びに応じた課題を出すことができるというようなことです。

それから、あとは動画や解説で自分がつまづいたところについても見直すことができます。見直しながらまた戻って、課題に取り組んで、できるようになったらまた次へと、自分のペースに合った学びが家庭でも展開することができる可能性がございます。

その次です。教員のほうですね。教員のほうも働き方改革ということで、これまでの子どもの学びの様子をより詳細に把握する。それが非常に効率的に楽にできるということ、そこから授業改善が短時間でできるようになったりとか、それから、様々な校務文書を作成するのも1つのデータを活用して、いろんな文書が一度にできるというようなことで、非常に効率的に文書を作ることができる等々、非常に校務支援システムを入れることで校務の執行がスムーズになりつつあるというような声も聞かれるようになりました。

それから、最後でございますけれども、子どもたちは、今、非常に教科書の紙の質も上がり、なおかつ大きさが大きくなっているということで、大変重い荷物を毎日持ち運びしておるということになるんですけれども、これに対しても今後進んでいけば、この情報端末を持ち運びすることで重い荷物からも解放されるというようなことも出てまいります。

そんなようなことで、いろいろこれまでの提案、今後の可能性等も含めてお話をさせていただきました。主なものとしてはこのような形で授業改善、それから、家庭学習について、そして、教員の働き方改革についてと、主には3つの課題があると思われまますけれども、これまでの資料等を見ていただきながらこの3点についてご意見を頂けると大変ありがたいと思います。よろしく願いいたします。

以上でございます。

【市長】

ありがとうございました。

大分この桑名のICT教育もここまでできるようになったのかということで、大変詳しい説明を頂いたと思います。大本は大きくSociety5.0という社会の実現に向けて文部科学省もGIGAスクール構想というものを立ち上げ、それに基づいて桑名市も進めてきたんですけれども、それがコロナへの対応でなかなか一気に進まなかった部分が大きく進むようになったということなのかなというふうに思います。

オンラインでやると面白いですね、いろいろ見えて。教育監のところには何人かスタッフがおるのが見えましたが、私、市長室で1人で誰もいない中で寂しく会議に参加をしているんですが、ちょっとここまです踏まえて、いろいろICT教育の方向性についてご意見を頂ければというふうに思っています。

では、最初なので、まずは教育長のほうからお願いしようかな。

教育長、お願いいたします。

【教育長】

教育長の近藤でございます。改めまして、おはようございます。

先ほど事務局から提案を頂きましたけれども、これからの桑名市のICT教育の方向性ということでございますが、やはりウイズコロナの時代、あるいはアフターコロナの時代、今盛んにおっしゃっていただいていますように、新しい生活様式の中で教育活動を展開していくためにはやはり1人1台端末というのが欠かせないツールだというふうに改めて感じているところでございます。

今日の総合教育会議は初めてオンラインでの会議ということでございますが、委員の皆さん方はほとんどの会議がオンラインだというふうにおっしゃっております。コロナ禍の中でオンライン会議は当たり前とか、企業さん、あるいは大学のほうではテレワークとかオンライン授業が幅広く行われていると聞いておるわけですが、やはり学校現場は、今、事務局から提案させていただいたんですけれども、ICT化については今盛んに整備中ということかなと思っております。今回、臨時休校があったわけです

が、先ほど事務局から説明がありましたように、一部の学校ではオンライン授業の試行のようなことができたわけですが、多くの学校では学習プリントを宿題に配付して、また回収するというような形で行ってきたということでございますので、第2波に向けて何とかオンライン授業ができる環境を整えていかなくてはと非常に危機感を持って考えておるところでございます。

そんな中でございますので、幾つかご意見を頂きたいなと思っておるんですが、幾つか課題もありまして、先ほどありましたように、家庭環境がWi-Fiの環境であるところばかりではないということでございますので、これについて誰一人取り残さないという考え方で1人1台タブレットをぜひ早めにやりたいということと、国のGIGAスクール構想が2023年までということだったんですけれども、この新型コロナの感染拡大防止ということでかなり前倒しになっておりますので、先ほど事務局からありましたように、9月末導入に向けてしっかりと取り組んでいきたいと思っておるところでございます。

そんな中でございますが、今一番大きな課題が家庭の通信環境をどうするかということでございまして、あらかじめ私どもで調べたんですけれども、現在のところ、6%程度の子どもさんがWi-Fiのない環境で行っているということでございますので、これについては何とかしていきたいというふうに考えておるところでございます。

取りあえず現状報告ということで発言をさせていただきました。

【市長】

ありがとうございました。

桑名の教育もようやく変わりつつあるけれども、やっぱり社会の変革のほうが大分先に進んでいて、そこに追いつこうとしているというような状況なのかなというふうに思いました。

その中で、やはり家庭でのオンライン教育を進めようとしたときに、Wi-Fiにつながっていないご自宅への環境なんかも、ここの環境整備も大事なのかなということでしたけれども、既に大学なんかではオンライン教育も進んでいるんじゃないかなというふうに思いますので、その辺りを含めて松岡委員のほうから、もしありましたらよろしく願いをしたいというふうに思います。

【松岡委員】

松岡です。

基本、大学のほうは、私はといいますか、在宅勤務で、家から授業をやったりしているんですけれども、今日は大学のほうから参加しています。

【総務課伊藤主幹】

お話し中すみません、皆さん、聞こえていますか。そろそろ1回目のミーティングの時間が終わりそうなので、大変申し訳ないんですけれども、2回目のミーティングに入り直していただくよう、お願いをします。一旦中断させていただいて、入り直しのほうをお願いいたします。

(録画中断)

【松岡委員】

オンライン授業はどんどんどんどん展開されていくので、それにうまく合わせて授業を展開していけばいいのかなと思うんですね。1つ思うのは、みんな、放っておくとゲームばかりやるので、その辺をゲームとかそういうのを受ける側じゃなくて、発信する側、先生方もそういうことができるんだ、あるいは簡単なプログラミング、こうすることで、先ほどマイクロビットという便利なものをちょこちょこっと作ってしまうんだというのを子どもたちに見せて、学んで、あと、自分たちで思ったものを形にできていく、そんなような授業展開をしてもらいたいなというふうに思います。

取りあえず私からは以上です。

【市長】

ありがとうございます。

松岡委員、最初のほうにおっしゃった会議と授業では精神的なプレッシャーも違うというような話がありましたが、具体的にもう少しその辺って教えてもらってもいいですか。

【松岡委員】

会議というのは普通におしゃべりのような感じで進めていけるので、学会発表とか、そういうのとまた違うのかもしれませんが、お互いにマイクを入れっ放しで、そうだよねとか、普通のしゃべり方ができるんですけども、授業のとき、双方向的とはいうものの、やっぱりリードする立場になるので、リードする側、先生、声が聞こえませんかと言われると舞い上がっちゃうわけですよ。そこら辺で精神的負担を感じたということで、始めてみればそんなでもないかと、そういう感じです。

【市長】

ありがとうございました。

おそらくこれから桑名の教育委員の先生方も同じようにトライ・アンド・エラーをしながら進めていくのかなというふうなことが今分かりました。ありがとうございました。

では、続いて、稲垣委員、お願いできますか。

【稲垣委員】

まず、9月末に向けて桑名市がかなり先駆けて1人1台というのに進んでいるというのを聞きまして、事務の皆さんのご尽力といましようか、ご努力にほんとうに頭が下がる思いです。

今の話の続きでいくと、実際、私も大人向けですけども、スクールとかをやっている、実際、今まで集合研修という形でやっていたものは全部なしになっています。全てがオンラインになっているんですが、おかげさまでちょっと準備をしたのでうまくはいつているんですけども、1つ言えることは、要は集合研修でやっていたような、多分、学校でいくと、学校で子どもたちを前にしてやっていたような授業の進め方と全く同じようにオンラインでやっても全然うまくいかないんですよ。オンラインはオンラインのクリプトというか、進め方、指導のやり方なんていうのがやっぱりあって、もう一度ゼロからストーリーを作り直してやっているというのが現状です。だから、オフライン、今までの授業の代わりでオンラインを使うという発想はすごく難しいんじゃないかなというのが1つありますね。

I C Tに関してはほんとうに桑名市の取組とかもすばらしいなというふうに思っていますし、ぜひ活用していただければ、さっき松岡先生がおっしゃったように、できる人がたくさんの事例をやっていくというのがすごく大事だと思うので、どんどんやれる人がたくさんの試みをやって、その事例をどんどん広げていくというのが個人的にはいいかなと。横並びでやるというものでもないのかなというふうにも思っています。

個人的には、久米小でしたか、Z o o mを使った朝会みたいなのがあったと思うんですよ。

【市長】

久米小ですね。

【稲垣委員】

やっぱり今後のことを考えると、授業を教えるということに関しては、最悪、スタディーアプリだったりとか、もちろん先生たちのとか、あと、国もたくさん用意しているので、多分そういうのをうまく使っていく。ベテランの先生ほど多分自分のやり方があると思いますが、そういうところにそういうのを入れながらやると基本的には先生たちの働き方改革にもなると思うんですよ。例えば1限目に1年1組で同じことを話して、1年2組で同じことを話してとか、もちろんちょっとずつ対面で違うものを入れてはいくと思うんですけども、うまく使って、でも、やっぱり先生ならではのあいう Z o o mの双方向をいかに作り出すかということで、例えばうちもスクールではビデオを3時間、通常14時間でやっていたのを12時間に縮小して、なおかつその3時間分を実はビデオにしたんですね。なので、ビデオを見てくださいますと。残りの9時間分だけ、こういう双方向のオンラインの授業にしたんですけども、その結果、ビデオで教えることはもうビデオで見てねと。でも、リアルに双方向のときにどういうファシリテーションをしていくのかとか、どうやって生徒一人一人のものを引き出していくのかというのはやっぱり先生ならではのノウハウになると思うので、やっぱりそういうのが必要になるかなと。でも、結果としては、14時間あったものが12時間になり、なおかつ実際に私たちが実働する時間は9時間、3時間が動画視聴になったので9時間だけになったので、ある意味働き方改革にもなったかなんていうふうにも思うので、プラスにと考えるときついんですけど、要らないものを逆に言うと減ら

していくような感じで、ぜひうまく学校現場で取り入れていただけたらなんていうふうにも、減らすものも考えつつ、ぜひ取り入れていただきたいなと思っております。

すみません、以上です。

【市長】

ありがとうございます。

ビジネスの全てがこのオンラインに切り替わっていったというようなことなので、しかも既存のビジネスの仕方とオンラインは少し違うよということや、先生が得意な部分をいかにうまく出して、ある意味、楽できる部分はどんどん削っていてもいいんじゃないのかなというような、そういうことかなと思いました。

【稲垣委員】

そうですね。ほんとうに何を削るかということも一緒に考えていかないと、先生たちにどんどん負荷がつくというののもちょっと違うかなというふうに思います。

【市長】

ありがとうございます。

では、松香委員、お願いできますか。

【松香委員】

桑名市がどんどん進めていることはすごく素晴らしいと思います。私の周辺でも、大学の先生は皆さん苦勞しながらも、これほど人生において授業の準備をしたことがないことをやっていらっしゃるようで、稲垣さんのおっしゃるとおり、今までどおりのことがそのままいくというわけではないので、昨日教わったのはICTの正しい略は、いつもちょっとトラブルというのだそうです。何か必ずフリーズしたりとか、音声途絶えたりとか、何かあるので、そのぐらいの気楽な気持ちでやらないと、松岡先生じゃないけど、精神的には先生方も大変みたいなんですけど、私がこの機会にやってみたことで、今年、英語キッズコンテストが中止になったんですけど、オンラインでオンライン発表会というのができないかということで、うちのほうで3回ぐらい試したのを見てみると、一番びっくりしたのは中学生なんですけど、自分で内容を考えて、写真を使ってパワーポイントを作ったりとか、動画まで作るような子とかいて、それとか、今まで全然発表とか、舞台に出てやるのが嫌だという子も内容的にすごく映像的に工夫したり、そういうことが楽しくなるというので、今年やるのは無理だなと思うんですけど、もし9月に導入していただいて、家庭の環境もまだ6%ということなんですけど、10%ぐらいのところまで試したところがあって、それだと、やっぱりみんなスマホは持っていらっしゃるので、それで親が何かかかやってくれるんですけど、一番感激したのは、中学生以降だと自分で内容を考えて、ものすごく自立性が高まるということと、あと、保護者がすごく協力的で、じゃ、自分の好きな食べ物はカツ丼だとかいうと、湯気の立ったカツ丼が出てきたりとか、保護者が内容をすごく把握するというのがびっくりしたことです。だから、来年、2021年にも発表会ができれば、オンラインというのをやることによって、桑名の商工会議所の人も、学校関係者も、それから、高校にするのもいいと思う、いろんな方に見ていただけたらとか、そういう可能性を一回試すのもいいのかなと。すごいチャレンジなことなんですけど、外とつながれるという大きな利点を使えるといいかなと思ったりもしています。これはすごいチャレンジだと思いつつ、あまりにも中学生とかが変容するのでびっくりしています。

小学校英語はちょっと不運な教科で、必修になったときには東北大震災が起こり、教科化になったらコロナが起こり、今、最も削られる教科とかになっているんですけど、今の段階で利用できるのは5、6年生に読み書きのアルファベットの書き方とか、読み方とか、そういうのはいろんな教科書会社とか文科省も出しているんで、そういうのがいいかなと現実的には思います。それだけです。

【市長】

ありがとうございます。

松香委員、桑名の子どものためのWi-Fiの家庭での環境の話なんですけれども、今6%と教育長が言ったのはWi-Fiにつながっていない家庭が6%、ですから、これは中学3年生を対象のアンケート

トを取ったんですけれども、94%はつながっているということだったので。

【松香委員】

そうですか。それはすごいですね。

【市長】

かなり高いなと思って驚いたところです。

【松香委員】

そうですね。びっくりですね。

【市長】

松香委員から提案のオンラインでの発表会なんかもできるんじゃないかなというふうに思いますけど、教育長にその実現可能性を今問うてみましょうか。教育長、どうですか。

【教育長】

教育長の近藤でございます。

先ほど松香委員からお話し頂いて、やっぱりチャレンジするべきだろうなと思っております。

ちょっと面白い話だけ少しさせていただきますと、桑名市の場合、私も若手の先生たちがすごく得意なんだろうなと。ICTはやっぱり若手の先生だなと思っておったんですが、意外や意外、ベテランがわりとうまく使ってみえるということがありまして、若手のノウハウとベテランのいわゆる授業の勘どころというんですか、それをドッキングすることですごくいい授業ができているように思いますので、英語コンテストも今までのとおりそれをオンラインに置き換えるという形じゃないんですけれども、チャレンジする価値はあるんじゃないかなと聞かせていただいております。

以上です。

【松香委員】

ありがとうございます。会場も要らないし。

【市長】

確かにそういう意味では教育委員会がやる気になっているので、しっかりとまた来年に向けて準備していきたいなと思います。ありがとうございます。

では、まさに会社の経営にもおそらく大きく影響されていると思いますけれども、経営者の視点であるとか、また、親御さんの視点ということで、佐藤委員から、どうぞよろしくお願ひします。

【佐藤委員】

まずは桑名市のICT環境を整えていただきましたことにほんとうに感謝申し上げます。

1つ個人的なお話なんですけれども、私の小学校の息子も初めて学校でiPadが導入されたときに、その当日なんですけれども、家に帰ってきて1番にその話をしていました。それは今日初めて学校にiPadが導入された。そのことによって教科書だけでは得られない情報をiPadから得ることができたとか、あと、チームというか、班で意見を出し合うところがあったそうなんですけれども、自分の考えているのとは違う友達の意見を聞くことができたとか、そういったことを夕食の時間に随分話をしていましたので、それだけでもやっぱり学びに対する興味とか、そういったものでは非常にこれは効果があったなというふうには思っています。ということで、ICT教育の第一歩としては非常に成功しておりますし、子どももあんな機器に柔軟に対応できるので、これがどんどん進んでいくかなというふうには思います。

このオンライン教育といいますか、ICT教育の中で今回コロナの問題がありましたけれども、桑名市ではなかったんですけれども、オンライン授業をやっている中でなるほどなと思った意見がありまして、1つは、オンライン授業で、先ほどと重なるんですけれども、自分以外の友達の意見を聞くことができたというのもそうなんですけれども、在宅で勉強しているときに自分の学習が今、宿題をオンラインで受け取っていたんですけれども、自分の学習が友達と比較してどれだけ進んでいるかというのが見ることができたと。そういったことを言っていたので、そういった使い方があるのかなというのと、中にはずっとステイホームで家の中で友達との会話が少ない中でオンライン授業をしていただいたこ

とで非常に寂しさを紛らわせることができたという子どももいましたので、そういった意味では、今後、緊急事態のときでの対応もそうですし、相手の気持ちを分かり合うということでは非常にこの機会、オンラインとか、ICT教育というのは非常にいい機会だったなというふうには思います。

今後ですけれども、やはり次の第2、第3のステップとしては、AIのビッグデータをいかに使うかということが教育の中であつたりとか、社会の中でも重要なことかなと思います。いかに多くの情報をいろんな機器類から、コンピューター、いろんな世界からの情報を得て、それを新しい発見に踏み出すような、こういうような教育方法というのがこれから重要だなというふうに思っています。

あと、ちょっと確認ですけど、Wi-Fi環境の話なんですけれども、例えば企業とかですと、今回の緊急事態宣言の中で在宅勤務を推進するためにIT補助金というのがありまして、パソコンであつたりとか、オンライン機器を購入するための補助をするという制度がありましたけれども、仮に家庭でのWi-Fi環境を整えるときに、ランニングコストはちょっと難しいかと思えますけど、初期導入に関しての補助金というのがあるのかどうかというのが追加でお聞きしたいことでございます。

以上です。

【市長】

ありがとうございます。

まず、補助金といいますか、そういう制度があるかどうか、教育委員会のほうで何かありますか。

【教育総務課長】

教育総務課長の天野です。

Wi-Fi環境の家庭学習のための通信機器の整備支援ということで国の補助がついてございまして、こちらにつきましては上限1万円でございますが、LTEの通信環境のモバイルルーターの整備を支援するという補助がついてございます。

あと、一方、通信費につきましても、就学支援を受けている方々につきましては通信費についても上限がございますが、福祉の教育扶助として支援があるという形でございます。

以上です。

【佐藤委員】

ありがとうございます。

【市長】

そういうことです。

佐藤委員に伺いたいんですけど、やっぱり子どもたちもこの場所でこれからある意味ICTの教育を受けながら成長して行って、我々としてはこの桑名の地で働いてくれる、ずっと暮らし続けてくれるというのが理想なんですけれども、やっぱり企業の本拠地とか、採用する側からすると、最後のほうにおっしゃっていたようなAIだとかビッグデータみたいなところに精通しているみたいな社員の方というのはやっぱり必要だというようなことなんですかね。ICTに慣れているというのはおそらく当たり前になっていると思うんですけども、そこをやはり思っておられるという感じですかね。

【佐藤委員】

やはり機械を使いこなすというよりは、得た情報をどう活用するかということかと思えます。いろんな情報を収集するのはやっぱりコンピューターでの世界中の情報をいかに習得するかということかと思えますので、それを自社といいますか、自分の次につなげるための活用はやっぱり人間であるべきかなというふうに思います。

【市長】

ありがとうございます。

やっぱり最初に松岡委員がおっしゃったようなゲームばかりするんじゃなくて、発信をということだつたりとか、松香委員が中学生の子たちの発表の仕方が非常にレベルが高くなっているという話につながってくるのかなと。

【佐藤委員】

そうですね。

【市長】

そういう部分に桑名のICT教育もできればいいのかなというところかなと感じました。どうもありがとうございます。

これでぐるっと一周していますけれども、まだこういうことを言いたいよというような方がたくさん今日はおられると思いますけれども、挙手でいけるのかな。言い足りなかった人は、見た感じ、稲垣委員は言い足りなさそうな雰囲気が出ていますので、稲垣委員からまずいきましょうか。

【稲垣委員】

家庭の問題、今6%というのは実際数にするとどのぐらいなのか分からないですが、かなり少ないけれども、でも、実際、確実にいるということですよ。なので、今の補助金だったりとか、そういうので基本的にはぜひ整備していただきたいとも思いますし、実は今それだけではないというふうにも言われていて、じゃ、家にはあるけど、スマホしかないとかというと、やっぱりこれって顔が見えてるかとかというのもすごく大事な要素だったりとかするので、モニターはどうなるんだとか、やっぱりノートパソコンのある人とiPhoneだけの人とでは全然学びの浸透率みたいなのも違ってくるんじゃないかなとかというのは思うので、その辺はほんとうに家庭学習としては課題が多いなというふうにも思っております。

以上です。

【市長】

6%というと、教育長、どれぐらいの数に、数字でいくとどれぐらいになるんですかね。分かりますか。

【教育長】

たしか六百何名やったと思うんですが、719ということです。今ちょっとおっしゃっていただいた稲垣委員のお話で、桑名市の場合、市長さん、後押ししていただいてiPadを入れるということですから、そのiPadをご家庭に持ち帰っていただければ、今のランドセルの中にiPadが入っていましたけれども、あんな形になれば全ての子どもたちが家庭でオンラインで学習できるということですので、その心配はわりとないんじゃないかと。あと、セキュリティーの問題が非常に私どもとしてはこれから課題かなとは思っております。1人1台ということになると、今おっしゃったようなところは解消できるかなと思っております。

【稲垣委員】

ありがとうございます。

【市長】

もともと私たちも1人1台の端末を導入しようとしたときはGIGAスクール構想に基づいた対応だったので、学校現場で使えばいいかなというような端末を想定していたんですけども、やはりコロナへの対応でオンライン教育に切り替わるだろうということで、セキュリティーの部分の予算も追加で議会には認めていただいていますので、そこは解消できるのかなと思っています。ただ、やはり最後の通信の部分、6%というのが私は2割くらいおるんじゃないかなと思っていたので、ここが意外とその程度だったので、何かの形で100%につなげるような形ができればいいというのが今私たちの思いでもあります。頑張ってください。

【稲垣委員】

ありがとうございます。

【市長】

ほかにどなたか。松香委員が手を挙げていただいていますので、松香委員、お願いします。

【松香委員】

質問なんですけど、中学生が6%ですか。すごく低いと思うんですけど、小学生はどうなんですか。私が兵庫県の明石の辺りでオンライン発表会をやった人が調べたときは、PCを持っている人は10%だ

ったんですね、家庭で。だから、すごい高いなと思って、今スマホも含めているとは思いますが、小学生が家に持って帰ってもいいのかとか、中学生も家に持って帰っていいのか、それが小学生も6%なら素晴らしいと思うんですけど、どうなんでしょう。

【市長】

教育委員会のほうで分かりますか。

【教育長】

先ほど松香委員がおっしゃっていただいた部分ですけども、これは小中ともです。小中ともでWi-Fi環境がない子が6%、719人ということでしたので、かなり私どもとしても持ってみえるんやなと思っております。

【松香委員】

素晴らしいですね。桑名は進んでいますね。だって、上智大学の先生とお話ししたら、上智みたいな大学の学生さんでもパソコン貸出とか、ルーター貸出とか、やらなきゃならなかったという話を聞いたので、それってすごいですね。素晴らしいことです。

【市長】

そうですね。我々行政が何かしているわけではないんですけども、やはり市民の方たちが積極的にこういう部分を重要とっていただいた結果がこういう形で出るのかなというふうに思っています。

何か教育委員会のほうから付け足しでありますか。

教育長、どうぞ。

【教育長】

1つは、意外に高いというふうに思ったんですけども、私ども、逆に言いますと、全国の学力調査等でもスマホと付き合う時間が非常に長い、ゲームが非常に好きな子どもたちということもその裏にはあるんじゃないかなと。それと、かなりご家庭でもスマホについてはいろんな面で活用頂いておるということもありますので、今度分かってきたことは、テレワークをされるとなるとちょうど子どもたちがその時期に使えなくなったりということもありますので、環境だけが一概に言えないというところも見えてきたところでございます。

【市長】

確かにそうですね。仮にコロナの第2波、第3波ということになると親御さんと子どもたちも家にいて、お父さん、お母さんはテレワーク、子どもたちがオンライン教育となると、そのときは足りないよねというような課題もあつたりしますから、そこも大きな課題なのかなというふうに捉えてしっかりやっていっていただくということなのかなと。ありがとうございます。

あと、スマホとの付き合い方も程々というか、うまく使っていただくように子どもたちへの指導をお願いいたします。

ほかに。

【松香委員】

いいですか。

【市長】

どうぞ。

【松香委員】

もう一つ質問なんですけど、今、小学校も中学校も桑名は随分軽症だったようなんですけど、東京のほうはまだまだひどくて、まだあまり学校へ行けていないですね。そうすると、年間計画が変わってしまったわけですね。4、5、6とか、教育できていないところを埋め戻す。埋め戻すというのも変なんですけど、そこら辺のことはどうなっているんでしょうね。それをICTでどこか解決できるのかなとかと思ったりもしますけど。

【市長】

この辺りの対応、ICTで何かすることがあるのかどうか。これも教育委員会のほうでどなたかお願

いします。

【教育監兼学校支援課長】

それでは、学校支援課、高木よりご説明させていただきます。

まず、時間的な部分については、ちょっと子どもたちにも気の毒なんですけど、夏季休業と冬季休業を若干短くさせていただくということで1つは時間を稼ぐということをやっております。

それから、あと、ICT関係の活用ということですけども、これについては積極的に使うことで効率的な授業を進めることで少しでも子どもたちが理解を深めつつ、時間も少しでも短縮する形でできるようにしながら1年間に必要なカリキュラムは何とかこなしていきたいし、今のところの読みではこなせることができるんじゃないかなというふうには考えております。

あとは万が一、第2波、第3波が来たときには当然オンライン授業等も積極的にしながら対応していくということにはなるかと考えております。

【松香委員】

そうですね。それができるといいですよ。中学校の先生とか、例えば今までライブ、英語で授業というライブとプリントなんです。ライブとプリントから、そういう手法から脱する大きなチャンスかなと思いますけど、先生たちはプリントがすごく好きで、自分の思いをプリントに全部込めて、それを渡すとすっかり教えた気になるようなことが多かったと思うんですけど、そこら辺をこれだけ抜けてしまったところを回復するというのをチャンスにしてやっていただくといいのかなとも思いますけど。

【市長】

ありがとうございます。

教育委員会のほうでも現場の先生たちにも、ある意味、授業のやり方を変えていくチャンスだということをしっかりお伝え頂いて、変えられる部分は変えていただければいいのかなと。ありがとうございます。

ほかにどなたかおられますか。全体を通じて何かほかにご意見等があれば、ぜひお願いをしたいというふうに思います。

教育長、お願いします。

【教育長】

今まではオンライン授業等のことで話をしてきたんですけども、もうちょっと積極的にやりたいなということが教育委員会でもありまして、少しPRをさせていただけんかなと思ひまして手を挙げさせていただきました。

誰一人取り残さない教育ということで考えていくと、1つの大きな柱として特別支援教育があると思ひますので、このオンラインを使ってやりますと、今、入退院を繰り返している子どもさんがみえまして、その子どもさんたちも病院でも授業に参加できるというようなこともいろんな工夫をしていくと可能だと分かってきておりますので、教育委員会としても特別支援教育へのICTの導入というのを考えていきたいと思ひておりますのと、それと、どこまで行けるか分かりませんが、不登校の子どもたちへの活用がある意味いけるんじゃないかなと。非常に今いろんな形で多様な不登校の子どもたちへの対応がフリースクールも含めてやられているんですけども、かなりICTのところですと参加しやすい環境になるんじゃないかと、また面白さみたいなものをつかんでいただくと、その子たちが学校復帰とか、あるいはみんなと学ぶことへの機会をどんどん増やしていけるんじゃないかなと思ひますので、その2点をこれから私どもとしても取り組んでいきたいなということでございますので、PRを兼ねて少し発言をさせていただきました。

以上です。

【市長】

ありがとうございます。

桑名市の教育もSDGsの観点から誰一人取り残さない対応をするためにICTを特別支援の教育で

あったりとか、また、不登校の子たちへの教育にも活用できるんじゃないかというような、そういう提案といいますか、そういうお話を頂いたんですけれども、この辺りで何かいろいろご意見もあろうかというふうに思いますけれども、どなたかもしありましたら、ご意見頂ければというふうに思います。

【稲垣委員】

稲垣ですけど、すごくいいアイデアだなと思いました。ぜひ取り組んでいただきたいなと思いました。以上です。

【市長】

ありがとうございます。

松岡委員とか、いかがでしょうか。

【松岡委員】

私もそのようなことを思っておりまして、ちょっと最初のほうでも入れようかなと思ったりもしたんですけれども、これからはやっぱり併用する時代になると思うんですね。端末を置いておいて、急に休んだからやりましょうとか、不登校だけでも、オンラインなら参加できる子がいるからというような感じで手軽に先生がそばに置いておいてオンラインも併用できるようにと、そういうふうな形に持っていってもらって学校みんなに教育をとというのが形になっていくんじゃないかなと思います。私もそう思います。

【市長】

ありがとうございます。

ほかに。今の教育長からの発言以外でも最後に何かご意見がございましたら、よろしく願います。大丈夫そうですね。ありがとうございました。

本日は桑名市ICT教育の方向性について委員の皆様から貴重なご意見を頂きました。今後は本日頂いたご意見を踏まえまして桑名市のICT教育を進めていきたいと考えておりますので、よろしく願いをいたします。

それでは、続いて、事項書の2に移ります。その他になりますけれども、事務局から何かありましたら、よろしく願いいたします。

【総務部理事兼総務課長】

総務課、金子でございます。

次回の会議についてお話しさせていただきたいと思います。次回の会議では、今回ご意見を頂きましたことを参考にいたしまして、桑名市で実施されますICT教育を実際に体験していただきたいと考えております。日程、時期ですが、来年の1月頃を予定しております。詳細につきましては改めてご連絡させていただきたいと思いますので、よろしく願います。

あと、今回の会議、オンラインでさせていただきまして、なかなか慣れないところもあったんですけれども、皆様方、慣れた方も多くいらっしゃってうまくスムーズに運べたと思います。ただ、発言をされる場合はマイクを外していただいてすぐ入っていただくか、挙手の機能みたいなものもありますので、そういったところをご活用頂いて会議をしていただければと思います。今回かなり有意義な会議になったと思います。どうもありがとうございました。

以上です。

【市長】

ありがとうございました。

行政側の不手際も少しあったかもしれませんが、皆さんの協力で第1回の桑名市総合教育会議、オンラインでの初の会議を終えることができました。ほんとうにご協力ありがとうございました。

委員の皆様からお伺いして、やはり社会はいろんなものがオンラインに移行してきている中で行政がまだまだ遅れているんだなということも改めて私たちも感じたところでもありますけれども、皆さんからいろいろ頂いたご意見を参考にさせていただいて、桑名のオンライン教育、また、行政のオンライン化にもしっかりと取り組んで新しい生活様式に合わせた桑名市に変えていきたいというふうに思います。

本日はご協力頂きましてどうもありがとうございました。これで会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

— 了 —